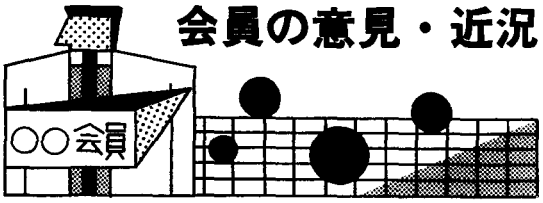

会員の意見・近況

「お金」の面の重視をのぞむ

西南学院大学商学部　浜田　和樹

私は会計学の領域の中で，分析会計論（経営分析）を担当している者です．分析会計論は管理会計の一分野であり，企業が公表する財務諸表やその他の資料により，経営状態の分析をするだけでなく，これを計画と統制に役立てることを目的とするものです．そのため，伝統的な会計学の思考と同時に，ＯＲの手法や，思考が有用です．

私が会計学をやっているせいか，ＯＲ誌の経営学，会計学等に近い領域のものは，非常に興味深く読ませていただいています．ただ，会員の専門分野が，ほとんど文科系でないためか，その種のものの数が少なく，何か寂しい気もします．

経営は，「人」「物」「金」と「情報」をいかに効率よく，組織の中で運用し，管理するかが重要だと言われますが，ＯＲ誌はとりわけ，「金」の面を扱ったものが少ないように思います．資金の調達と運用の問題，すなわち，どの種の負債，資本で資金を調達し，これをどの種の資産に運用するかというような資金の流れについての問題も，企業の重要なＯＲの適用領域と思います．この面でのＯＲ誌の一層の充実を願っています．

また，従来の基礎講座は，他分野になじみのない私にとって，一貫した知識を得るのに役立ちました．今後，これをもう一度復活させ，いろいろな専門分野の人からの基礎的な解説を希望しています．

開かれた企業・開かれた大学

共和コンクリート工業(株)　長津　行高

企業と企業人にとってのＯＲの有用性は，現実の経営や業務における意思決定に，また企業目的の追求にどの程度役立っているかによって評価されるであろう．

当社では４年前に，その有用性については躊いながらも研修も兼ねて，社内にＯＲ研究会を発足させた．20数名の会員で，まず基礎理論の学習，復習からスタートした．第１期生は完了後，グループ・ワークで特定のテーマに取組む，その間第２期生が勉強して行くという進め方であった．

試行錯誤を重ねながらも，全国発表会４編，本誌発表１編という実績を残してきた．（線形計画法，シミュレーション，ＯＡ）常務会でも威力を発揮してきた．

学会に望むのは，今まで以上に他企業の実績を知り得る機会を提供してほしいことである．

各社においては，企業秘密の壁が厚いと思うのであるが，もう少しオープンになってもよいのではないだろうか．われわれも求めて企業と企業の風穴を空けるよう努力すべきと考える．

さらに，産と学がそれぞれ遊離している感が強い．「開かれた」大学と企業でＯＲのより一層の発展を期すべきと思う．

「人工知能＋ＯＲ的アプローチ」によりＯＲの新しい方向を

北海道大学工学部　栗原　正仁

少し前までのＯＲは，与えられた数式モデルを数理的に，または計算機によって解析し，意思決定のための情報を抽出しようとするものであったと思われる．そのため，多くの研究者が，現実世界のものごと間の関係を何とか数式で表現しようと工夫してきた．つまり，まず何事も数式で表さなければＯＲは始まらないという考えが主流であったように思われる．しかし現実世界の様子はすべて数式で表わせるわけではない．

コンピュータ・サイエンスの一分野である人工知能の研究では，昔から人間の知識（あいまいで，数式ではまったく表現不可能）をいかに表現し，それを利用するかという研究が盛んであり，多くの成果が得られつつある．これらの研究の多くは哲学的・心理学的アプローチが，純粋に技術的・工学的アプローチをとっている．ＯＲもこのような新しい動きをとり入れていく必要があるのではなかろうか．人工知能＋ＯＲ的アプローチによりＯＲの新しい方向が得られるように思う．それは，答（最適解）を求めるためのＯＲではなく，人間の高度な知的活動を支援し，結果的に人間の判断力を高める Intellectual Amplifier としてのＯＲである．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．